

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月10日(金)5校時

児童 1年2組(男16名,女10名 計26名)

指導者 教諭 佐々木 須美子

- 1 単元名 くらべてよもう
教材名 じどう車くらべ(光村図書上)

2 単元の目標

- ◎自動車の仕事と作りの関係に興味をもって読み,ほかの自動車を説明する文章を書くことができる。
○自動車の仕事と作りに興味をもち,自動車に関する本を読もうとする。

(関・意・態)

- 3種類の自動車について仕事と作りの関係を考えながら内容の大体を読むことができる。

(読イ)

- 教材文を参考にして,簡単な組み立てを考えて好きな自動車の仕事と作りを説明する文を書くことができる。

(書ウ)

- 片仮名で書く語を読んだり書いたりすることができる。

(言イ)

3 単元の評価規準

- ◎自動車の仕事と作りの関係に興味をもって読み,ほかの自動車を説明する文章を書こうとしている。
○自動車の仕事と作りに興味をもち,自動車に関する本を読もうとしている。

(関・意・態)

- 3種類の自動車について仕事と作りの関係を考えながら内容の大体を読んでいる。

(読イ)

- 教材文を参考にして,簡単な組み立てを考えて好きな自動車の仕事と作りを説明する文を書いている。

(書ウ)

- 片仮名で書く語を読んだり書いたりしている。

(言イ)

4 単元について

(1) 教材について

本単元に関わる小学校指導要領の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読む能力を身に付けさせるとともに,楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。また,内容としては,「C読むこと(1)イ時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」とある。

本教材は,この時期の児童の興味・関心の対象として代表的なものの一つ,自動車を取り上げた説明文である。自動車の機能とそれに即応した仕組みについて説明した文章で,4つの意味段落から構成されている。説明のしかたは,「話題・問題提起→問題に対する説明」を,自動車の「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる形をとっている。この時期の児童の好きな題材を取り上げ,主体的な理解・表現活動を促す教材構成である。

(2) これまでの学習との関連

【1年】

「いろいろなくちばし」
・写真を手がかりにして,書かれていることの大体をつかむ。

↓

【2年】

「たんぼぼのちえ」
・時間の順序や理由づけを示す言葉に着目し,様子とわけなどを考えながら読む。

↓

「じどう車くらべ」
・自動車の仕事と作りの関係を考えながら読む。



「どうぶつの赤ちゃん」
・時間の流れに沿って、内容の大体を読む。

「サンゴの海の生き物たち」
・「サンゴの海の生き物たち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。



「一本の木」
・「一本の木」の叙述の順序を考えながら内容を読む。

(3) 児童について

本学級の児童は、本が好きな子が多く、朝読書の時間や読み聞かせを楽しみにしている。物語文の学習では、登場人物の気持ちになって発表したり身体表現をしたりしている。しかし、個々に目を向けると、正しく文章を読んで内容を理解したり、書いたりすることには個人差がある。また、個別に支援が必要な児童が2名いる。

このような児童の実態をふまえ、自信を持って読むことができるようにするために、音読に力を入れて指導をしてきた。家庭音読にも取り組ませ、教材の内容を把握させて学習に入ることができるように留意してきた。自分の考えを発表する場面では、途中までの発表でも認めたり、個々の考えの良さを皆で認め合ったりしてきた。その結果、自信を持って学習に取り組む児童が増えてきた。これまで児童は、「いろいろなくちばし」の学習では、「問い→答え」の文章構成を学習してきた。本文からくちばしの特徴を見つけ、大事な言葉を視写したりくちばしを使って動作化をしたりして、読み取りを深めてきた。

(4) 指導にあたって（仮説との関わり）

本教材は、まず前書きの部分で児童の関心をいろいろな自動車に誘っている。そして、それぞれの自動車がどんな「しごと」をしているか、そのためにどんな「つくり」になっているかを読者に問いかけ、疑問や着眼点の芽が読み手の内部に芽吹くようになっている。そこで、その芽を大事にしなが、それぞれの自動車の説明が「しごと」についてと「つくり」についてのまとまりから成っていることに気づかせたい。具体的には、「そのために」という言葉が果たしている役割を児童に分かる言葉で話したり、児童に気付かせたりするように促すことが大切である。さらに、教材文の音読を多く取り入れ、「しごと」と「つくり」の視点から内容を読み取っていくこと、特徴を表す言葉を文章から探すことを通して、語句の意味や使い方を吟味して学習を進めていきたい。また、自動車図鑑を作るという目標を設定し、意欲づけを図りながら、読書活動に結び付けて、調べたり表現したりする活動へも発展させたい。

【研究仮説1「読むこと」の学習指導過程に確かに読むための「書く活動」を取り入れる。】

ア それぞれの自動車の「しごと」や「つくり」が書かれている部分にサイドラインを引くこと。

イ それぞれの自動車の「しごと」や「つくり」を視写すること。

ウ 「しごと」や「つくり」について自分が思ったことや考えたことを書くこと。

【研究仮説2「読むこと」に関わる学習技能を身に付ける活動を工夫する。】

ア 第1のまとまりの「どんなしごとをしていますか。」と対応させながら読ませるようにする。

イ 「そのために」「～ように」という表現に着目させ、「つくり」を理解させる。

ウ 言葉だけでは十分に理解できない面については、動作化をさせたり挿絵で確認したりする。

5 単元の指導と評価の計画 (9 時間)

段階	時間	主な学習活動	具体的評価規準 (おおむね満足)	努力を要する児童への 支援
つかむ	1	○知っている自動車の名前を挙げ、どんな自動車があるか話し合う。 ○自動車図鑑を作ることを知り、作り方を理解する。 ○全文を音読し、新出漢字や片仮名を練習する。	○知っている自動車について進んで発表しようとしている。 ○自動車図鑑作りに関心をもっている。 ○はっきりと読んでいる。	○自分が自動車に乗った経験や家にある自動車について思い出させる。
	2	○新出漢字や片仮名を練習する。 ○全文を音読し、文章構成をつかむ。	○「問い」と「答え」の関係に気付き、内容の大体を読み取っている。	○教材文の挿絵に着目させながら文章を読ませる。
ふかめる	3	○「バスや乗用車」の「しごと」と「つくり」を読む。	○「バスや乗用車」の「しごと」と「つくり」を正しく読み取っている。	○挿絵を見ながら、何をする車なのかを考えさせ、それが書いてある部分を探させる。
	4	○「トラック」の「しごと」と「つくり」を読む。	○「トラック」の「しごと」と「つくり」を正しく読み取っている。	○挿絵を見ながら、何をする車なのかを考えさせ、それが書いてある部分を探させる。
	5 本時	○「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を読む。	○「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を正しく読み取っている。	○挿絵を見ながら、何をする車なのかを考えさせ、それが書いてある部分を探させる。
まとめる	6	○「はしご車」について説明する文章を書く。	○「はしご車」の「しごと」と「つくり」を考えながら説明の文章を書いている。	○教材文や挿絵を見ながら、「しごと」と「つくり」を考えさせる。
	7 ・ 8	○好きな自動車を選び、自動車カードを作る。	○進んで好きな自動車を選び、「しごと」と「つくり」を考えて、カードに書いている。	○自動車の本を見ながら、何をする車でどんなつくりかを考えさせる。
	9	○自動車図鑑を完成させ、読み合う。	○友だちの自動車図鑑を読み、よいところを見つけようとしている。	○どの自動車が好きか考えさせながら読ませ、興味をもたせる。

6 本時の展開 5/9時間

(1) 目標

- 「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。

(2) 具体の評価規準

	A 十分満足	B おおむね満足	C努力を要す児童への手だて
読むこと	「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を正しく読み取っている。	「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を読み取っている。	挿絵を見ながら、何をする車なのかを考えさせ、それが書いてある部分を探させる。

(3) 本時の指導における仮説との関連

<仮説1に関わって>

- ア クレーン車の特徴を理解するために、「クレーン車」の「しごと」と「つくり」が書かれている部分にサイドラインを引くこと。
- イ クレーン車の特徴を理解するために、「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を視写すること。
- ウ 「クレーン車」の「しごと」や「つくり」について自分が思ったことや考えたことを書くこと。

<仮説2に関わって>

- ア 学習技能として、「そのために」の意味や使い方を指導する。

(4) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点 (・) 評価の観点 (◎)
つかむ 5分	1 前時の学習を振り返る 2 本時の学習課題を確認する クレーン車のしごととつくりをよみとろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の「しごと」と「つくり」に視点を当てて、トラックについて読み取ったことを押さえる。 ・一斉読みをして、本時の課題をしっかりと確認する。
ふかめる 30分	3 学習課題を解決する (1) 課題解決の見とおし ①「しごと」と「つくり」に着目させて、学習場面を音読する。 (2) 課題解決のための読み取り ①クレーン車の「しごと」を読み取る。 ・クレーン車の「しごと」が分かるところにサイドラインを引く。【仮説1 ア】 ・紙板書でサイドラインの確認をする。 ・「つりあげる」という言葉の意味を話し合う。 ・「しごと」について視写する。【仮説1 イ】 ②クレーン車の「つくり」を読み取る。 ・クレーン車の「つくり」が分かるところにサイドラインを引く。【仮説1 ア】 ・「うで」や「あし」や「車たい」の確認をする。 ・じょうぶなうでが「のびたりうごいたり」するのはなぜか話し合う。 ・「しっかりしたあし」がついているのはなぜか話し合う。 ・紙板書でサイドラインの確認をする。 ・「つくり」について視写する。【仮説1 イ】 ・「そのために」という言葉について着目させる。【仮説2 ア】	<ul style="list-style-type: none"> ・音読は、各自読みと一斉読みをし、「しごと」と「つくり」に気をつけて読むように意識づける。 ◎クレーン車の「しごと」にサイドラインを引くことができたか。(観察・挙手) ・バスや乗用車、トラックの「はこぶ」との違いを挿絵や動作化を通して確認する。 ・学習シートに視写をさせる。 ◎クレーン車の「つくり」にサイドラインを引くことができたか。(観察・挙手) ・挿絵を使って、うでやあしや車たいが指すところを確認する。 ・つりあげる仕事と関わっていることを、クレーン車の絵を見たり動作化をしたりしてつかませる。 ・話し合いを通して、重いものをつりあげているからだということに気づかせる。 ・仕事をするために、それにあつたつくりになっているということを前時までの学習と比べて考えさせる。
まとめる 10分	4 学習のまとめをする (1) 学習課題に対するまとめ ・クレーン車について学習して、思ったことや考えたことを書く。【仮説1 ウ】 ・まとめの音読をする。 (2) 自己評価をする。 5 次時の学習の見とおしをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートに自分の思いや考えを書かせる。 ・一斉読みをする。 ・学習を振り返りながら、シートに記入させる。 ・「はしご車」のしごととつくりを、文章にすることを知らせ、意欲づけを図る。

(5) 板書計画

じどう車くらべ
クレーン車のしごとと
つくりをよみとろう

しごと

おもいものを
つりあげる

そのために

つくり

じょうぶなうでが
のびたりうごいたりする

車たがかたあかないように
しかりしたあしがついている。

さし絵

さし絵